

正常者の場合

の場合

・単位指令(インパルス) →

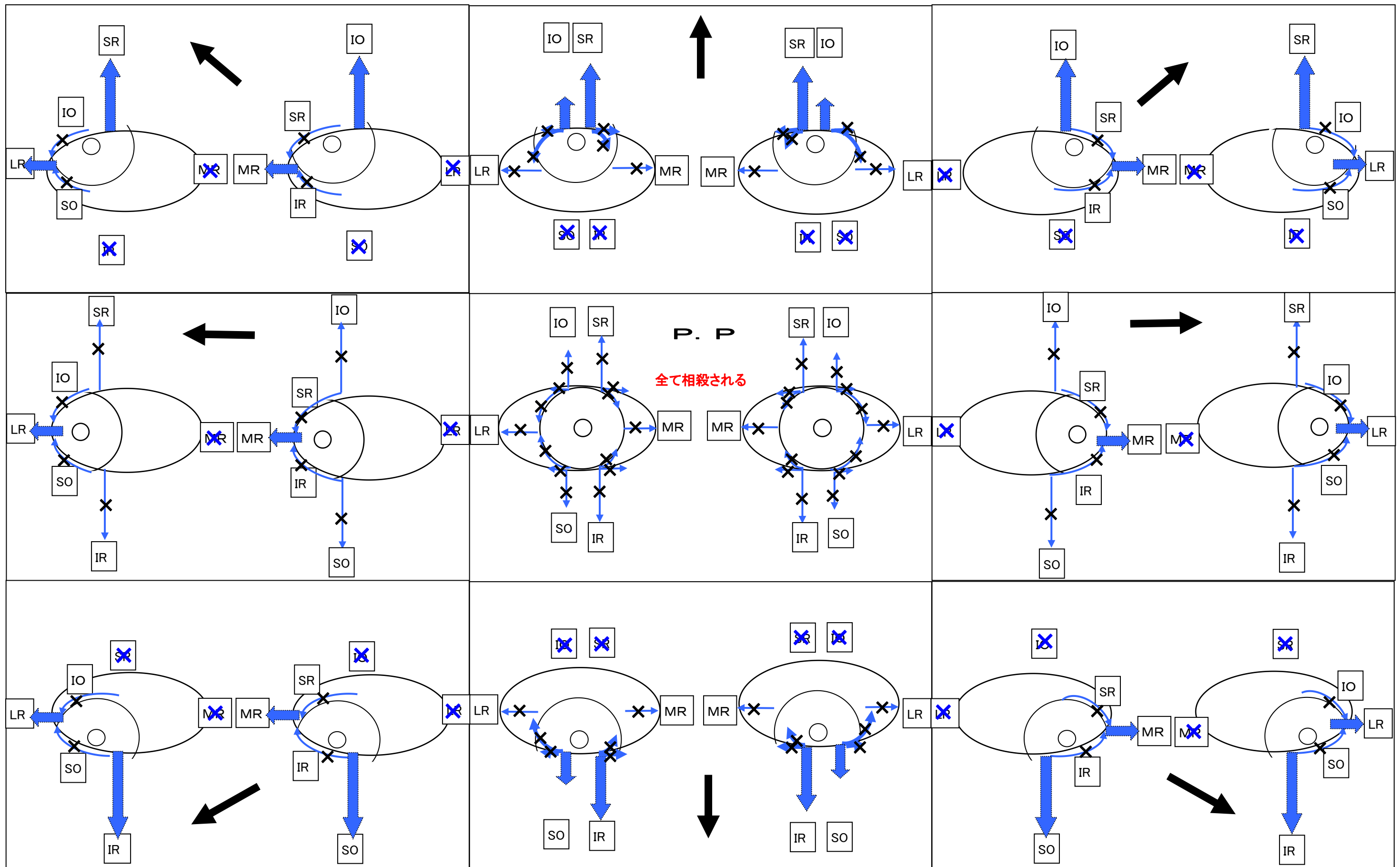
・Sherrington の法則 ×

・筋の緊張(生理的トーン) →

・相殺されるもの(相互の筋肉の均衡:動かない) ×



参考
上下直筋は約 23° 外転で上下最大、約 67° 内転で回旋最大となる。上下斜筋は約 51° 内転で上下最大、約 39° 外転で回旋最大となる。
ということは 20° ~ 25° の向き運動では、直筋は外転位で上下作用が最大となり、内転位では回旋作用は著明に出ることはない。
反対に 20° ~ 25° の向き運動では、斜筋は外転位で回旋作用が最大となり、内転位では上下作用は著明に出ることはない。



PPから眼球運動を考えること。

SR→上直筋 IR→下直筋 SO→上斜筋 IO→下斜筋 LR→外直筋 MR→内直筋

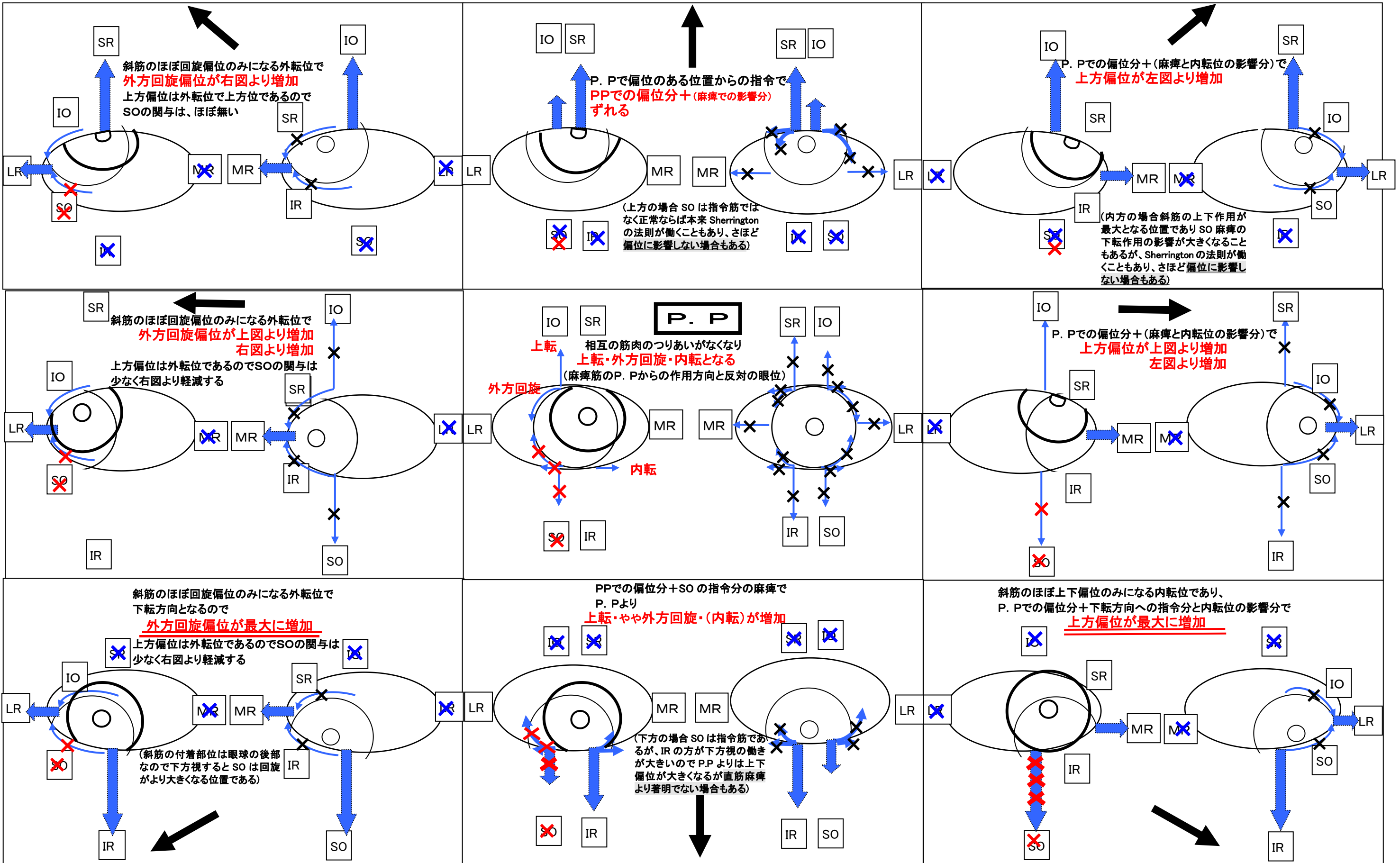
右眼上斜筋麻痺
(滑車:SO 神経麻痺)

の場合

- ・単位指令(インパルス) 
- ・麻痺筋 
- ・筋の緊張(麻痺眼は均衡状態の場合は省略) 

・Sherrington の法則 

・相殺されるもの(相互の筋肉の均衡:動かない)  ただし麻痺眼は省略



PP から眼球運動を考えること。